

水道事業の経営効率化と料金値下げに向けた取り組み

加西市では、平成21年度に有識者らによる「加西市水道事業のあり方検討委員会」を立ち上げ、様々な角度から水道事業の経営効率化、民間活用、広域化について検討しました。なお、委員会に参加いただいた有識者は、中北徹（東洋大学教授）、福島徹（兵庫県立大学教授）、眞柄泰基（トキワ松学園理事長）の三氏です。



加西市水道事業のあり方検討委員会は、H21.12からH22.3の間、公開方式で3度開催しました。

現在、市の水道事業の経営状況は単年度収支では黒字となっており、平成21年度水道事業会計の決算は、収益的収入が11億7,700万円、収益的支出が10億6,100万円となり、1億1,600万円の利益が出ています。その利益剰余金も積み立てられており、当分は健全経営が続く見通しですが、将来的には人口の減少などに伴い給水収益は低下すると予想されます。将来の更新費用を試算すると、平成31年度、平成40年度、平成46年度には設備の大規模更新を要し、今後25年間で約82億円、毎年約3億円を要すると考え、現状の運営形態を続けた場合、20年後には水道料金を5%程度値上げする事態が予想されます。

このような問題に対応するため、同委員会からは、水道事業の運営を民間事業者に委ねることについての懸念点（事業の公共性、安全性、継続性をいかに担保するかなど）についての具体的解決策を示した上で、市が一定の公的関与を残しつつ設備投資や運営面で民間活力の効果を期待できる「コンセッション方式」の導入が望ましいとの提言を受けました。

コンセッション方式とは、日本では一般に「公設民営」と呼ばれる形態で、現在、国においても各種インフラ整備への導入を検討しており、加西市の取り組みも注目されています。施設は市が保有しつつ、水道事業権を加西市と民間事業者が出資する新水道事業会社に譲渡し、その水道事業会社が料金徴収、施設の維持管理、更新工事などを行うという公民連携（PPP）の仕組みです。

この場合、市が水道施設を保有し、安定給水の最終責任を負うことに変わりありませんが、事業の実施主体が民間となることで、民間の創意工夫が最大限に引き出され、より合理的で弾力的な運営が可能となり、公共性を確保しつつ、一層のサービス充実と顧客満足が図れるものと期待されます。水道サービスの本質は、安全で美味しい水を安定的に低コストで市民の皆様にお届けすることであると認識しています。

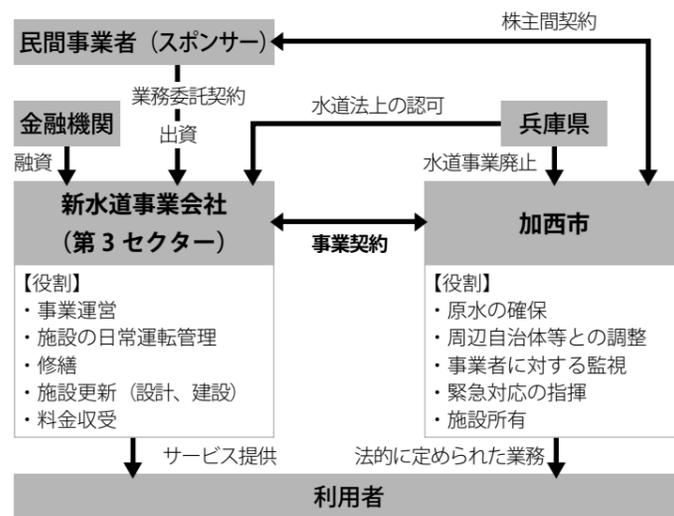
日頃市民の皆様からご要望の強い水道料金の値下げにつきましては、既に平成20年度に5%値下げしましたが、さらに10%程度の値下げを実施したいとの市長方針も踏まえ、いつどの程度の値下げが可能か目下検討中です。

先ずは平成23年度中にも5%の値下げを先行実施するのに加え、同委員会から提言のあった民間活用、すなわちコンセッション方式を導入することで更なる値下げを実現したいと考えています。

安全で良質な上水をより効率的に供給するために、加西市の水道事業にコンセッション方式を導入できれば全国初の事例となります。なお、実現までにはさらに詳細な検討、関係機関との調整、市民理解、議会審議など、いくつかの手順・手続きが必要です。市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

（生活環境部長）

■コンセッション方式（公設民営）での水道事業

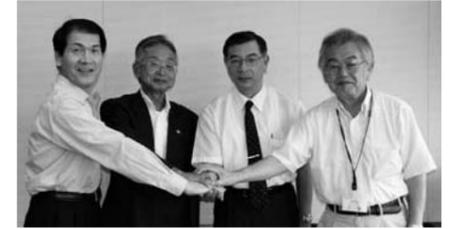


【問合せ】 業務管理課 ☎48791 FAX42558 gyomu@city.kasai.lg.jp

新教育長、任期付職員（10月1日採用）からのメッセージ

八巻一雄教育長が9月30日に退任、10月1日に吉田廣新教育長が就任しました。9月27日に、新旧教育長の間で事務引継が行われるとともに、新教育長から決意表明がなされました。また、新たに三人の任期付職員が各担当部署に配属されました。

右から、八巻一雄前教育長（平成17年11月11日～22年9月30日）、塩見教育改革担当、吉田新教育長。



■「元気やねん加西」を目指して

教育長 吉田 廣（64）

少子高齢化、情報化や国際化の進展のなかで、教育も、物質的豊かさから心の豊かさへ、画一・効率から多様・個性へ、受け身から自立と創造へと転換を図る必要があります。加西市は、豊かな自然に囲まれ、四季の花咲くすばらしいまちです。歴史遺産や史跡、石仏などに恵まれ、人と人との豊かなつながりで素朴で純粋な文化を育んできました。人が生きていくということは、絶えず何かを学び成長していくことです。人は文化の伝承と相互啓発によって成長していきます。「元気やねん加西」をスローガンに、加西市の特色を生かし、市民一人一人がまちづくりの主役となる「市民と進める加西市教育」を推進していきたい。



昭和57年兵庫教育大学大学院修了。小学校長、教育次長、公民館長、兵庫教育大学非常勤講師などを歴任。

■全ては加西市民のために

経営戦略室参事（政策、事業計画、広報、国際、特命事項担当） 山崎宏之（54）

私は過去、三菱電機と独立行政法人産業技術総合研究所に勤務しました。三菱ではハイテク分野、産総研では国家的見地から産業技術の育成に関わり、地域経済や中小企業や弱い立場の人々を守るという気持ちで仕事をしてきました。また、ビジネスと学究の両方の世界に身を置いたことで、信念や自らの生き方「the way of thinking」を体得できたと思います。21世紀は、個人が尊重され、住民生活に密接な「地域が輝く時代」でなければなりません。担当職務は、政策、広報、国際など多岐に亘りますが、全ては加西市民のために、全力を挙げて取り組みます。どうぞ宜しくお願いします。



昭和60年静岡大学院博士修了、同年三菱電機入社。平18（独）産総研入所。静岡大客員助教授、大阪大院非常勤講師などを歴任。工学博士。

■将来を勝ち取る力を子供たちに

教育改革担当 塩見善則（56）

和歌山県で民間校長を経験し、文科省の研究指定等に取り組んできました。特に、コミュニティ・スクールの開発研究では、地域や保護者が実際の学校経営に意見を反映させられるようなシステム作り而努力してきました。加西市は、学校と地元との連携が大変盛んな上、吉田教育長も地域市民の参画を目標にされておりますので、さらに、地域との一体型教育を推進していけるよう頑張ります。また、英語教育・情報教育・シチズンシップ教育等の新しい教育の流れも検証しながら、加西市の子供たちが、力強く、自分の将来をしっかり獲得していけるように、努力していきたいと思います。よろしくお願いたします。



平成3年ランカスター大学大学院修了。シェフィールド大学講師。小中学校校長。文科省「熟議懇談会」メンバー。

■環境先端都市の実現に向けて

生活環境部環境創造課主幹 野々村善民（46）

これまで、私は民間企業の立場で、主に建築環境工学、建築設備と風工学の観点から建設業に関わる環境アセスメント業務および研究開発に取り組んでおりました。この度、私は行政の立場で、都市全体を対象にした最先端の環境技術の導入について検討することになりました。環境に関わる技術は、「エネルギー」、「建築設備」と「環境負荷削減」の3つの技術により形成されます。私はこれらの技術をバランス良く導入することに加え、「加西市の地域性」と「日常生活の安全性」に配慮した環境施策を構築することを最終目標とします。数年後、加西市が日本を代表する環境先端都市となるようにしたいと思います。



平成3年広島大学大学院修了、㈱フジタに入社。都市環境に関する研究開発に従事。博士（工学）、一級建築士。